



西前小だより



横浜市立西前小学校

Web: <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nishimae/>

「子どもを幸せにする」学校と保護者の合意形成

校長 鳥飼 信幸

卒業・修了の3月となりました。人生の節目の時期です。

毎日子どもたちは心身ともに成長し、感動を与えてくれる存在でした。一人ひとりにドラマがあり、私たち職員は「大人になってもこんなに感動できるんだ」「教師は責任重大で…。でも子どもたちの成長を感じられる、なんてすばらしい仕事なんだ」と実感しました。たとえ、子どもたちはケンカをしても、自分のやってしまった行為をお互いに謝り、自分の気持ちを相手に伝え話し合うことで、相手の気持ちを知り、誤解や相手に嫌な思いをさせてしまった自分自身をみつめ直すこと「メタ認知」ができました。この「違いがあることを認め、対話を通して合意形成する力」、「見えない学力」の向上を感じました。

対話が成立する条件は何か？ 哲学者の岸見一郎氏は、「プラトンが記したソクラテスの言葉の三つの条件、『知識』『率直さ』『好意』、『好意』を欠くと、相手との意見の相違が人格批判に至る場合がある。考えそのものを批判するのであり、人を批判するのではない」とありました。

そうはいつでも、「好意」を抱くことは難しいことです。そこで、私が過去に書いた論文で、一人の子の行動の背景を分析した内容があります。その子の行動の背景はおよそ45に分類されました。

- ① 仲間に認めてもらいたい
- ② 自分の興味・関心にこだわる
- ③ 不安
- ④ 混乱
- ⑤ 自分をふりかえることができない
- ⑥ 状況に応じた行動ができない
- ⑦ 身の回りの整理整頓ができない
- ⑧ 仲よくするコツがつかめない
- ⑨ 自分の行動にストップをかけられない
- ⑩ 自分のやり方に固執
- ⑪ イライラしてちょっかいをだしてしまう
- ⑫ 開放感
- ⑬ 挑発を無視できない
- ⑭ 他者の立場を理解できない
- ⑮ 緊張
- ⑯ うれしさ
- ⑰ 課題はわかっているができない
- ⑱ 自先の満足をもとめる
- ⑲ 興味のないことを続けることが困難
- ⑳ 驚き
- ㉑ 悪いことをしていると決めつけられる
- ㉒ 相手が冗談を言っているのかどうかわからない
- ㉓ 自分がやりたいことを理由もなくとめられた
- ㉔ 課題の仕上げがずさん
- ㉕ 苛立ち
- ㉖ 精神的な努力の持続を要することを嫌う
- ㉗ 過去にあったことにこだわる
- ㉘ 思考停止
- ㉙ 余暇を過ごすことができない
- ㉚ 自分の世界に入り込みまわりが見えない
- ㉛ 日常の決まりを忘れてしまう
- ㉜ 課題や活動の意図がわからない
- ㉝ 相手と話す距離間がとれない
- ㉞ 並ぶときの距離間がとれない
- ㉟ 考えと動作が一致できない
- ㊱ 時間の

感覚がない ③7進級するプレッシャー ③8人のせい ③9自分は悪くないと正当化する ④0伝えられた意図が読めない ④1

自分も含め相手や周りの人のことも考えた指導の意図を理解することが難しい ④2事実と動機を分けて考えられない

④3言われたことが自分を否定されていると感じる ④4相手が感情的になるとついカッとなる ④5一度言ってしまったこと

が引くにひけない

一人でもこれだけの背景をもって行動しています。その瞬間にどれが当てはまるのかわかりません。人なのでこれ以外にもきつとあります。この行動の背景には、大人もあてはまる背景があるのではないかと思います。先程の「好意」は難しいが、「背景」を想像して対話することはできるのではないかと思います。一方、コロナ禍や忙しい中で対話をする機会が減り、その影響が子どもたちばかりではなく私たち大人にも出ていることも確かです。

本校で講演をしてくださった横浜創英中学校・高校校長の工藤勇一先生がお話ししてくださった「合意形成」に着目すると、対話する中で、自分だけの考えや価値観だけではなく、相手の考えや置かれた立場を尊重し、理解に努め、違いを認める。多様な考えを吸収することができ、自分自身をみつめ直し、自分を俯瞰して見られるようになる。感情的になっている自分に気付くようになり、相手の気持ちを押し量り、新たな考えが生まれ、違いを尊重し乗り越え解決に導くことにつながると考えられます。

また、保護者が学校の教育活動に参画し、子どもたちと一緒に育てる当事者意識をもつことも大切で、保護者と学校が「合意形成」することで、子どもが育つ学校になっていく。

私は入学式で「『しつけ』も『教育』も正解がありません。だからこそ、保護者と学校と一緒に子どもたちを育てていきましょう」と話しました。子どものために、保護者と学校がお互い尊重し合っていくことが大切です。「子どもたちが幸せになってほしい」と思うのは、私たち学校も同じです。そんな思いで担任は指導しています。また、子どもたちの将来を見据えた指導も行っています。孤立し自分のよさをも否定するようになってほしくないのです。その意義を感じ取っていただき、保護者と相談しながら、子どもたちを幸せにしていきたいです。一方向からの考えだけではなく、双方向に知恵を出し合っていくことです。大人が考えている現状と子どもたち自身が考えている現状には差がある場合もあります。そのことも感情的にならず冷静に私たち大人が感じ取り、寄り添いながら本音を聞き取っていくことも大切です。

工藤先生はたくさんの著作がありマスコミにも紹介されています。また、教育再生実行会議委員など、国の会議にも出席されています。保護者向けの本もあります。ぜひ、読んでみてください（「麴町中学校の型破り校長 非常識な教え」他）。工藤先生は、学校改革で有名ですが、なによりも一人の子を大切にされる先生です。私が尊敬する先生のお一人で

す。

6年生のみなさんは卒業を迎えます。卒業は、6年間みなさんを育ててくれた保護者・地域の方々・先生方に感謝の心をもつ機会です。「これからもよろしく願います」という思いも同時にもってください。

以前、学校だよりに掲載した早朝等に学校周辺のごみを拾ってくれている卒業生のように、今自分がいる場所で、今自分ができると、裏方で支える素敵な卒業生になってください。

6年生の保護者の皆様、小学校6年間、本校の教育活動にご理解ご協力ありがとうございました。今後の子どもたちの益々のご活躍を願っております。

1年生から5年生のみなさん、4月から「自律」「対話」「創造」の目標におかかって自分らしさを発揮してください。

2021年度が終わります。4月より PTA の皆様・保護者・第二地区連合町内会自治会西岡茂会長（学校運営協議会会長）、自治会会長の皆様、地域の皆様・学援隊の皆様・西中学校の石川博校長先生はじめ先生方、職員の皆様・幼稚園、保育園の先生方・商店街の皆様・戸部警察署・西消防署・子どもたちの学習を支えてくださった皆様・区役所、特に、こども家庭支援課、地域振興課、区政推進課の皆様・専門機関等の皆様・教育委員会の皆様、まだまだ多くの皆様に支えられました。本校の教育活動にご支援ご協力、本当に感謝申し上げます。ありがとうございます。2022年度も子どもたちのために、ONE TEAM で、ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

また、1年間、「西前小だより」を読んでいただきありがとうございました。私の体験による拙い文章で教育観を書かせていただきました。保護者、地域の方々、学校関係者、区役所など、多くの方々から感想をいただき、励みにさせていただいております。博多出身の方からは、「学校だより、よかったバイ」と声をかけられました。今後ともよろしくお願いいたします。

学校ホームページへのアクセスはこちらから→



【新型コロナウイルス感染症に関する連絡について】

新型コロナウイルス感染症に関連してお子様ご本人や同居のご家族が PCR 検査を実施した場合、または、濃厚接触者と認定された場合は、必ず学校までご連絡をお願いします。

配布した健康観察表を確認し、毎日の健康観察にご協力ください。

緊急の連絡をメール配信や学校ホームページで行うことがあります。随時ご確認いただくようお願い致します。

※学校関係者に新型コロナウイルス感染が確認された場合は、保護者の皆様にその旨お知らせいたします。